

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床生理学		講義	石川 倫子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
①生理学で学んだことを元に、実際の医療現場で使用する脳波計、心電図、筋電図を始めとする生理機能検査についての知識を深める。				
②内分泌による生理機能調節について理解する。				
授業の到達目標				
①各種生理機能検査はどういった生体现象をどのような原理で検出し、どのように評価しているのか、に答えられるようにする。				
②各種ホルモンの名称とその働き、どこから分泌され、どこに作用するのかを答えられるようにする。				
授業計画				
回	内容			
1	心臓の生理学と心電図検査			
2	ホルター心電図、モニター心電図			
3	血流量の測定、血圧の測定			
4	脳の生理学と脳波測定			
5	いろいろな脳波検査			
6	筋の生理学と筋電図・神経伝導検査			
7	肺気量分画と呼吸器系の検査			
8	エネルギー代謝・基礎代謝の検査			
9	体温とその調節・測定のいろいろ			
10	前半のまとめ			
11	内分泌による調節 視床下部と下垂体			
12	内分泌による調節 甲状腺と副腎			
13	内分泌による調節 性ホルモン			
14	内分泌による調節 その他のホルモン			
15	後半のまとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%	基本的な事項が理解できているかの確認を目的として出題します。		
レポート・課題	20%	各章をまとめたものと、練習問題を解いて提出してもらいます。詳細は授業中に説明します。		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
Qシリーズ 新生理学		竹内昭博	日本医事新報社	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
臨床工学講座 生体計測装置学		石原謙	医歯薬出版株式会社	
標準臨床検査学 生理検査学・画像検査学		谷口信行	医学書院	
自由記載	参考文献は一例ですので、自身で使い易いものを検討して使用してください。			
備考				
教科書は前期生理学で使用したものです。後半の内分泌で使用します。前半部分は必要であれば生体計測装置学、臨床検査学などの教科書を適宜参照してください。				